



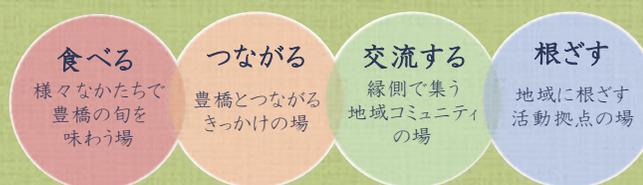
-道の駅とよはし-

開駅

建築課タイムズ
令和元年6月 第25号

『道の駅とよはし』のこだわりを紹介します。

豊橋に初めてできた道の駅は、まちと人、人と人をつなぐ場所「まちのえんがわ」をコンセプトとし、設計を進めました。縁側でしかみられない「風景」、縁側ならではの「味」を軸にコミュニケーションを誘発し、訪れた人と豊橋をつなぐ『縁』を大切にしたい施設を目指しました。



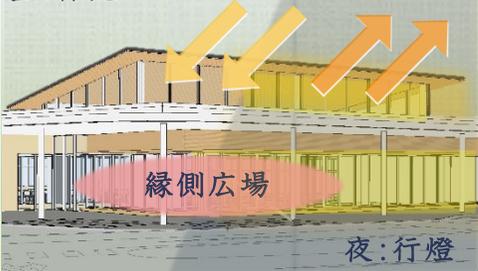
まちの今を発信する「えんがわとよはし」
施設全体の4つのコンセプト



異なる空間や用途が交わる中間領域を総じて「縁側」と位置付けています。(屋外と屋内、オープンスペース・テナントと共用部など)



昼:採光



夜:行燈



-機能性とシンボル性を両立させた大屋根-

施設中央の「縁側広場」上部を吹き抜けとしました。さらに三方をガラス張りとして透明感を出すのと同時に、十分な自然光を縁側空間に取り込みます。また夜になれば、辺りをやわらかく照らす“行燈(あんどん)”として存在感をアピールする役目も果たします。

このシンボリックな勾配屋根、実は隣接するあぐりパーク食彩村の屋根と意図的にデザインのイメージを統一させることにより、建物全体で食彩村との視覚的つながりを表現しています。

ROOF



道の駅
とよはし

縁側をモチーフにしたグラフィックを4つ、円形に配置。

“道の駅とよはし”

「豊橋市の魅力発信、地域コミュニティ活動の拠点として、人とまちをつなぐ場でありたい」という思いから、内外の交流の場となる4つの縁側で4つのコンセプトを表現しています。来館するすべての人に豊橋との良い縁(円形)がありますように。

“Tomateトマッテ”

「地域振興施設トマッテは豊橋市の特産品をPRし、商品の価値や生産者のこだわりを伝える場でありたい」という思いから、生産者の想いに(カメラで)迫る様子を表現しています。



Tomate
トマッテ

豊橋市の特産品ミニトマトとカメラのレンズがモチーフ。

LOGO



-温かみある東三河産杉を使用-

内装の縁側広場や情報提供施設、施設内に使用される家具は、ふんだんに木材を使用しています。また外装においても、デッキテラスや渡り廊下の軒天、垂壁等に積極的な木質化を図りました。

施設内で主に使用される木材は、東三河産の杉。地元の木材を使用することで輸送燃料の削減を目指し、環境にも優しい道の駅です。訪れた際には、地域材の温かみを感じてください。

WOOD

Tomate
トマッテ

工事期間中は、ご協力いただきありがとうございました。

豊橋市建設部建築課(タイムズ制作班)(<http://www.city.toyohashi.lg.jp/34397.htm>)